

# 国際協力

No.39  
2014 春号  
JICA駒ヶ根  
2014.4.1

Contents

祝 駒ヶ根訓練所 設立35周年……………	1、2	協力隊員現地レポート……………	5
イベント・レポート……………	3	帰国ボランティア紹介……………	5
国際協力エッセイコンテスト結果発表……………	3	新職員紹介……………	5
JICAボランティア春募集……………	4	長野県出身新ボランティア……………	6
JICAデスクの窓から……………	4	インフォメーション(派遣前訓練公開講座) ……	6

**特集** 地域とともに  
35年 Part2

## 祝・駒ヶ根青年海外協力隊訓練所35周年

今年5月に青年海外協力隊駒ヶ根訓練所は、設立35周年を迎えます。これまで、長野県や地域の皆様に支えられ、ここまでたどり着くことができました。改めてお礼を申し上げます。今後も、地域と共に歩み続ける訓練所でありたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### ◆ 駒ヶ根訓練所 35年の歩み

- 昭和40(1965)年 青年海外協力隊(JOCV)発足
- 昭和49(1974)年 青年海外協力隊長野県OB会発足
- 昭和54(1979)年 **駒ヶ根訓練所設立**：年間4隊次、候補者100人規模でスタート。訓練期間は105日間でした。
- 昭和57(1982)年 候補者の増加に伴い、一室二人部屋となる。
- 昭和58(1983)年 駒ヶ根協力隊を育てる会 発足
- 昭和61(1986)年 長野県青年海外協力隊を育てる会 発足
- 昭和63(1988)年 研修棟・講堂増築。1隊次190名規模となり、訓練は77日間。
- 平成3(1991)年 駒ヶ根訓練所での訓練修了者が5,000人を突破。
- 平成6(1994)年 二本松訓練所設立。広尾、駒ヶ根、二本松の3か所で訓練を同時並行で実施。訓練期間は79日間。
- 平成10(1998)年 駒ヶ根訓練所設立20周年 20周年の集いを開催。
- 平成12(2000)年 研修棟増築につづき、宿泊棟増築。居室はすべて個室となり、1隊次230名規模となりました。
- 平成13(2001)年 JICA長野県デスクを長野市に開設し、国際協力推進員を配置。駒ヶ根訓練所での訓練修了者が10,000人を突破。
- 平成17(2005)年 駒ヶ根訓練所設立25周年。
- 平成18(2006)年 駒ヶ根訓練所にてシニア海外ボランティア(SV)の訓練を開始。
- 平成21(2009)年 駒ヶ根訓練所設立30周年。駒ヶ根での訓練終了者が15,000人を突破。
- 平成25(2013)年 訓練期間は70日に。
- 平成26(2014)年 駒ヶ根市制60周年、駒ヶ根訓練所開設35周年。駒ヶ根市と共催で記念セミナーを開催。

来年は、青年海外協力隊は発足50周年を迎えます！

### ◆ 35周年に寄せて ~お祝いのメッセージ~



長野県知事  
阿部 守一

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の設立35周年を、心からお祝い申し上げます。  
貴訓練所が国際協力を通じ、地域の国際化の推進に大きく貢献していただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。  
隊員の皆様が任国に赴任後、今までとは全く異なる環境に身を置き、その国の人々と共に生活しながら「顔の見える」国際協力を実践されていることに深く敬意を表します。  
これからも貴訓練所が、国際協力の発信拠点として益々ご発展されますことをお祈り申し上げます。



駒ヶ根市長  
杉本 幸治

駒ヶ根訓練所設立35周年、誠にありがとうございます。この間、当市は訓練所のご支援をいただきながら、ネパール・ポカラ市との交流など国際化のまちづくりを実践して参りました。この節目を契機に、地域の魅力の一つである訓練所との連携を一層深化させ、国際協力、国際交流の意義を全国に発信できる基点の整備を協力して進めさせていただきたいと考えております。訓練所の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



「なんとかしなきゃ!」プロジェクトメンバー  
リーダー・パーソナリティ  
武田 徹

35周年おめでとう! 訓練所のある駒ヶ根には「霊犬早太郎」伝説があります。光前寺で育てられた山犬の早太郎が、異国の遠江国(昔の静岡県)まで出向き、命をかけて悪いヒビを倒し、娘たちを救ったのです。今でもその子孫の人々が感謝の意を伝えるため、当地を訪れています。この訓練所で育ち、海外で人々の支援をしている皆さんは現代の「霊犬早太郎」です。ご健闘を!!



公益財団法人  
長野県国際化協会  
理事長  
久世 良三

駒ヶ根訓練所設立35周年誠にありがとうございます。  
貴所は、多くの国際協力人材の育成と同時に、施設を持つ機能を最大限に活用され、本県の国際理解促進に多大な貢献を果たして来られました。  
全国に2か所しかない施設のうちの一つである貴所の存在は、本県にとって大きな財産であり、当協会といたしましても、この「地の利」ともいえる貴所のご協力をいただきながら、国際化の推進に努めてまいります。  
国際協力推進の礎として、貴所のますますのご発展を心から祈念申し上げます。



# 駒ヶ根市制60周年・駒ヶ根青年海外協力隊訓練所設立35周年記念セミナーを開催しました！

## 「青年海外協力隊とNGO・自治体との連携～現在、そしてこれから～」

今年は、訓練所の所在地である駒ヶ根市が市制60周年を迎えたと同時に、当訓練所の設立35周年の節目の年にあたります。これらを記念したセミナーを2月23日(日)に駒ヶ根訓練所で実施しました。

開会式では、仁田知樹所長の主催者挨拶に続き、本セミナーの共催者である駒ヶ根市の杉本幸治市長よりご挨拶いただきました。また、永年ご協力いただいている「駒ヶ根協力隊を育てる会」、「長野県青年海外協力隊OB会」、「長野県JICA派遣専門家連絡会」の方々を来賓としてお迎えし、代表として「駒ヶ根協力隊を育てる会」の高坂保会長よりご挨拶いただきました。

その後のパネルディスカッションでは、「青年海外協力隊とNGO・自治体との連携～現在、そしてこれから～」をテーマに、自治体を代表して杉本幸治駒ヶ根市長、NGOを代表して(特活)国際協力NGOセンターの山口誠史理事・事務局長、そしてJICAからは小川登志夫青年海外協力隊事務局長と仁田知樹駒ヶ根青年海外協力隊訓練所長の4名のパネリストによるディスカッションを行いました。進行役はJICAが実施している「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバーで、SBCラジオ「つれづれ散歩道」パーソナリティ武田徹氏。これまでの青年海外協力隊事業と自治体・NGOとの連携事例についてのそれぞれの立場からの報告と、自治体・NGO側から連携を深めていくための今後のリクエスト等の発表で、セミナー参加者の方々にとってはこれまであまり知られていなかった協力隊事業と自治体・NGOとの連携を知る機会となりました。

各講座セッションでは、駒ヶ根訓練所で訓練を受けた青年海外協力隊OB・OGの5名が協力隊の経験を経て、現在活躍している団体の活動を紹介。講師の一人、スリランカ協力隊OGの青木杏里さんは、協力隊時代に立ち上げた女性生産者団体を日本で紹介する活動を中心に、日本でもスリランカの文化を楽しむことができる活動として、同期隊員と2人でスリランカ雑貨ショップを立ち上げた経緯を参加者に伝えました。参加者らは青木さん提供のスリランカ紅茶を飲みながらお話に聞き入っていました。



パネルディスカッション

最後のクロージングセッションでは、各講座セッションの講師の感想や参加者の代表の感想をいただきました。

セミナーの前週は訓練所35年の歴史の中で最大量の積雪を観測。セミナーの開催も危ぶまれましたが、当日は85名の方にご参加いただきました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

**パネリスト** 駒ヶ根市長 杉本幸治 氏  
 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター  
 理事・事務局長 山口誠史 氏  
 独行政法人国際協力機構  
 青年海外協力隊事務局長 小川登志夫  
 独行政法人国際協力機構  
 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所長 仁田知樹

**進行役** SBCラジオ「つれづれ散歩道」パーソナリティ  
 「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー  
 武田 徹 氏



「学校建設(生き方を変えた青年海外協力隊)」

一般社団法人長野県国際協力支援センター 理事長  
 小笠原一博 氏(協力隊OB・バングラデシュ)



「村落女性がキラリ輝く! 環境ソーシャルデザイン」

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 理事  
 戸田裕子 氏(協力隊OG・ネパール(ポカラ))



「防災を通じた地域づくり」

公益社団法人中越防災安全推進機構  
 地域防災センターチーフコーディネーター  
 河内 毅 氏(協力隊OB・グアテマラ)



「スリランカ雑貨ショップ立ち上げ～スリランカと日本の小さな架け橋を目指し～」

スリランカ雑貨のラクリア  
 青木杏里 氏(協力隊OG・スリランカ)



「若者の力を活かした地域の活性化/問題解決」

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
 理事・事務局長  
 古河大輔 氏(協力隊OG・ポリビア)



クロージングセッション

講座セッションの各講座の講師の方々に前に参加者が感想発表。

# イベント・レポート

Event Report

2/8

## 「世界で学び、日本でシェア!〜教師海外研修&青年海外協力隊帰国報告会」を行いました!

JICAが毎年実施している教師海外研修。本年度はブータンへ長野県から2名の先生が派遣され、県内では初めてとなる報告、そして青年海外協力隊の帰国報告を併せて、松本市あがたの森文化会館にて行いました。

当日の松本市内は記録的な大雪にも拘らず、熱心な教員の方々と国際協力に興味のある学生さんらが参加してくださいました。

第1部の教師海外研修の報告会では、ゲストスピーカーに榎本智恵子さんをお迎えし、協力隊員としてブータンで聴覚障害の生徒に美術を教えてきた経験を美しい映像とともに紹介。そして教師海外研修に参加した丸山妙子教諭(長野県若槻養護学校中学部)と松島千尋教諭(安曇野市立豊科南中学校)による報告。自分たちの生の体験を直接話すことで、生徒たち



手前が丸山教諭、奥が松島教諭

が目を輝かせて反応したことや、またお二人とも特別支援学級を担任されており、「幸せの国」ブータンだからこそ、生徒たちが自分自身の幸せを考えることができましたと報告されました。

第2部は青年海外協力隊の帰国者3名による報告会。木曾町在住の城里史さん(職種:村落開発普及員、派遣国:セネガル)は、セネガルの食事や人種、また村人と行った植林活動や体が不自由な方が作った工芸品を販売したこと、安曇野市出身の小松洋さん(職種:体育、派遣国:シンパプエ)は、障がいを持つ生徒と健常者が同じフィールドでスポーツをするための様々な工夫をしたことについて、松本市出身の郷津智美さん(職種:小学校教諭、派遣国:バヌアツ)は、のんびりとしたバヌアツの小学校で算数や音楽の指導についての報告をしてくれました。



城里史さん



郷津智美さん

来年度の教師海外研修はモンゴル(予定)。4月上旬に募集が始まります。県内の教員の皆様のご応募をお待ちしています!



小松洋さん(第2部の報告者は松島教諭の教え子でした。当日に再会!)

2/22~

## 長野県の中学生が最高賞を受賞!

### JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2013 結果発表。

1962年から始まり、今年で52年目を迎えた国際協力エッセイコンテスト。開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることが目的です。

2013年度のテーマは「世界と日本の幸せのために一私がしたいこと、すべきこと」。長野県内からの応募率は全国でもトップレベル。中学生は1,498作品(全国44,289作品) 高校生は1,392作品(全国28,964作品)の



県内訪問表彰の様子 特別学校賞を受賞した駒ヶ根市立赤穂中学校

応募がありました。世界のためにしたこと、してみたいこと等具体的な内容が多く、皆さんの熱意が伝わりました。また、最優秀賞のJICA理事長賞、審査員特別賞が県内から選出され、全国表彰を受けました。おめでとうございます!

また来年も生徒の皆さんのたくさんのご応募を楽しみにしています。



全国表彰で受賞の言葉を述べた青木 至人くん(JICA理事長賞受賞)

### 県内結果発表

青木くんと中村くんは副賞のベトナム研修旅行に行ってきます!

**中学校の部** JICA理事長賞/東御市立北御牧中学校 青木 至人くん「どんな小さな一歩でも」 審査員特別賞/信州大学教育学部附属松本中学校 中村 彰汰くん「特別」 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 所長賞/才教学園中学校 百瀬 和花さん 佳作/飯田市立高陵中学校 北原 裕子さん・塩尻市立塩尻西部中学校 川島 朱生さん・佐久市立浅間中学校 井出 裕貴くん・信州大学教育学部附属松本中学校 松井 拓郎くん・池田町立高瀬中学校 高木 咲美さん 青年海外協力隊長長野県OB会会長賞/信州大学教育学部附属長野中学校 塚田 莉奈さん 特別学校賞(計3校)/安曇野市立三郷中学校・駒ヶ根市立赤穂中学校・信州大学教育学部附属長野中学校 学校賞(計7校)/飯田市立高陵中学校・塩尻市立塩尻西部中学校・佐久市立浅間中学校・松本市立信明中学校・信州大学教育学部附属松本中学校・須坂市立墨坂中学校・池田町立高瀬中学校

**高校生の部** 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 所長賞/長野県長野高等学校 中島 雪乃さん 青年海外協力隊長長野県OB会会長賞/長野県篠ノ井高等学校 眞峰 千佳さん・長野県松川高等学校 伊波 瑠奈さん・長野県上伊那農業高等学校 倉田 光輝くん・長野県上伊那農業高等学校 清水 玲菜さん・長野県上田高等学校 宮澤 愛美さん・長野県上田高等学校 藤木 紀江さん・長野県長野高等学校 西崎 啓太朗くん・長野県長野西高等学校 前田 惇超くん 特別学校賞(計2校)/長野県下伊那農業高等学校・長野県上伊那農業高等学校 学校賞(計4校)/長野県篠ノ井高等学校・長野県松川高等学校・長野県上田高等学校・長野県長野高等学校

12/7  
1/18

## 「国際理解教育 指導者セミナー」を開催しました! ~参加型学習の実践を目指して~

国際理解教育(開発教育)に関わっている方々を支援するため、JICA駒ヶ根が毎年行っている「国際理解教育 指導者セミナー」。本年度は、12月7日(土)、1月18日(土)の二日間連続講座を、松本市にて行いました。

対象は、国際理解教育のための参加型学習を授業で取り入れたいと考えている教育関係者。今回の目的は、ニーズが高い「参加型学習」を自らが組み立て、実践できるようになること。県内各地から、のべ41名の教育関係者が参加されました。講師は(特活)開発教育協会(DEAR)の西あい氏。

1日目は様々なアイスブレイキングや参加型学習を体験しながらも、参加型学習の基本ルール、ポイントなどを学習。



2日目は、1日目で学んだ手法を参加者の中から3名がファシリテーターとなり、他の参加者に向けて実践。その後、振り返りと意見交換を行いました。参加者からは、ご自身の生徒さんらを念頭に入れながら、様々な意見を他の参加者と積極的に交換し合っていました。2日目の最後には全員が今後の抱負を発表。多くの方が参加型学習を学校現場で取り入れたい、との強い思いを述べました。

来年度も、さらにパワーアップしたセミナーを開催する予定です。ご期待ください! 当セミナーや国際理解教育に関するお問い合わせもお待ちしています。



# 今期もやります、JICAボランティア募集説明会!!



▲前回の募集説明会の様子

JICAボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）の春募集説明会を以下の日程で実施いたします。国際協力に少し興味がある方から、ボランティアへの応募を考えている方まで門戸を広く開けて

お待ちしております。ぜひ一度足をお運びください。  
帰国したボランティアの体験談あり、応募相談あり、ワークショップあり、その他魅力的な内容満載で、皆さんにJICAボランティアをご説明します。  
※途中入退場可（駒ヶ根市会場を除く）

上田、諏訪会場では国際理解ワークショップを行います。（要申し込み）

開催日	曜日	時間	対象	説明会場
3月29日	(土)	10:30-12:00	シニア海外ボランティア	長野市TOiGO 第一・第二会議室
		14:00-17:00	青年海外協力隊	
3月30日	(日)	14:00-17:00	青年海外協力隊/ シニア海外ボランティア	上田中央公民館 第三会議室
4月 5日	(土)	10:30-12:00	シニア海外ボランティア	松本市Mウイング 3-2会議室
		14:00-17:00	青年海外協力隊	
4月11日	(金)	18:00-20:00	青年海外協力隊/ シニア海外ボランティア	飯田市りんご庁舎 3階 第1・2会議室
4月12日	(土)	14:00-17:00	青年海外協力隊/ シニア海外ボランティア	諏訪文化センター 第三集会室
4月19日	(土)	11:00-15:30	一日体験入隊： 高校生以上のJICAボランティアを目指す方、 興味のある方（要申し込み）	駒ヶ根訓練所

お申込み、お問い合わせは下記まで。

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所（JICA駒ヶ根） 募集担当：吉田

TEL: 0265-82-6151 (代) FAX: 0265-82-5336 E-mail: jicakjv-jocv@jica.go.jp

## 「三四六さんと語る協力隊の夕べ ～スポーツと国際協力～」

**開催決定!!**



▲三四六氏

駒ヶ根訓練所設立35周年記念募集説明会特別企画として信州でお馴染みの三四六さんを招待したトークイベントを駒ヶ根訓練所で開催いたします。青年海外協力隊や、スポーツと国際協力についての熱いトークから、ミニライブまで、盛りだくさんの内容となります。いつもと違った三四

六さんの一面が拝めるかも!? スタッフ共々皆様を訓練所でお待ちしております!!

日にち: 平成26年4月26日(土)

時間: (開場) 17:30 (開演) 18:00

場所: 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 森のステージ

定員: 150名

詳細はJICA駒ヶ根のホームページ(<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>)をご覧ください。

### 新コーナー

## JICAデスクの窓から♪

皆さん、こんにちは。JICA長野デスク(国際協力推進員)の宮澤です。今号から始まります新コーナーです。実は「長野デスクってどこにあるんですか?」とよく聞かれます。

JICA長野デスクは、駒ヶ根市ではなく、長野県庁東庁舎にある「公益財団法人長野県国際化協会」内にあります。JICA長野県国際協力推進員が、国際化協会の多文化共生サポーターの皆さん(ポルトガル語、タガログ語、中国語、タイ語対応)と一緒に机を並べています。長野県にいながらいるんな国の言葉が聞こえる職場です。

ここで、地域のJICA窓口としてJICA事業の広報や企画、また隊員の皆さんの声を聞いたり地元からの国際

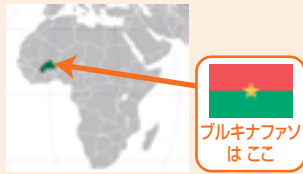
協力出前講座等のご依頼を頂き調整をしています。

百聞は一見にしかず!? ご興味のある方、ぜひ一度足をお運びください。お待ちしております。協力隊の「信州発国際協力」パワーと、「しあわせ信州」(長野県のキャッチフレーズ)なハートで一緒に盛り上げていきましよう♪



お問い合わせは、JICAデスク  
tel: 026-235-7186 宮澤まで

協力隊員  
現地レポート  
from ブルキナファソ  
かわかみ けい な  
川上桂奈さん  
平成25年度1次隊  
職種：小学校教諭



ブルキナファソ  
はここ

まだまだ日本での認知度は高くないブルキナファソですが、野球少年サンホ・ラシーナ君の活躍で、その名を耳にした方も多いのではないのでしょうか。

私は首都からバスで1時間ほど離れたジニアレ市において小学校を巡回し、子ども中心の教育を実現するため、算数と理科を中心に教材や授業方法の提案をしています。

また今の季節は、ハルマツタンと呼ばれる貿易風が容赦なく吹き付けてきます。大量の砂埃が巻き上げられることによって、晴れているにもかかわらず、写真のように太陽の光が遮られてしまうこともあります。この砂嵐



砂埃が回り一面に立ち込めるため、裸眼で太陽が直視できません。

は現地の人にとっても脅威のようで、鼻の穴にブルキナファソの名産品でもあるシアバターを塗って、病気から身を守ろうとする姿もよく見受けられます。3月末から4月、5月にかけては40度を超す猛暑が続くので、アフリカの気候の厳しさを、まもなく身をもって感じることになりそうです。



市場にて、活動先の小学校の子どもたちと一緒に

日本で築いた私の価値観を、一つ、また一つとおもしろいほど簡単に崩していくブルキナファソでの生活ですが、だからこそ互いの考えを聞きあい、自分の頭でどうするべきなのかを考え判断していく機会に多く恵まれ、悩みながらも充実した日々を過ごしています。残りの任期の中で、地域に、自分に何を残すことができるのか。自分でも自身の今後の姿の想像がつかないというのが本音ですが、私に出来ることを探して、一歩ずつ前に進んでいこうと思います。

是非、長野県のみなさんもブルキナファソへお越しください。家族をととても大切にするブルキナファソ人は、私たちのこともきっと温かく迎えてくれますよ！

## 帰国したJICAボランティアの方々

2年間の活動  
お疲れ様でした!!



青年海外協力隊(H23年度3次隊 2012年1月~2014年1月)

郷津 智美 さん(松本市)

- 派遣国：バヌアツ共和国
- 職種：小学校教諭

大学生の頃、「こども」と関わる仕事をしたいと考え教師の夢を目指しながらも、自分に語れるものがないまま教師になることに違和感を覚えました。もっと違う形での子供たちとの関わり方があるかもしれない、という気持ちと、国際協力NGOでのインターンの経験から、途上国の子供たちに興味を持ったことで協力隊への参加を決めました。



一番の成果は、配属校や算数教員教師会に所属している現地の先生たちの、算数指導に対する興味を高められたこと。算数指導をすることを好きになってくれた教員がたくさんいました。

バヌアツで感じた、コミュニティが一体となった子育て、教育。学校、地域、家庭のつながりを大切にしたい教育を日本で実践できる方法を模索していきたいと思っています。



シニア海外ボランティア(H23年度3次隊 2012年1月~2014年1月)

西村 寛 さん(佐久穂町)

- 派遣国：マレーシア
- 職種：就職支援

世界で3番目に大きい島ボルネオ島で活動しておりました。ボルネオ島というと熱帯雨林気候で、ジャングルばかりと思われがちですが、一番近いジャングルへは車で30分行かないと見ることは出来ません。



サラワク州の州都クチン(マレー語で「猫」という意味)郊外にある職業訓練校が私の勤務先でした。技術訓練を修了した訓練生の就職率アップが私の仕事です。日本のように就職シーズンはなく、企業は必要な時にしか募集しません。募集時期が一定していない事が最大の障害でした。しかし、毎月メールマガジンを発行し、常に企業側とコンタクトを取り続けることで、就職率はアップしました。

一年中夏の気候で過ごし易く、新鮮な野菜、魚類が豊富でした。少数民族系と中華系が多く住んでいる開放的な環境の中で、2年間楽しく過ごすことが出来ました。

## 新職員紹介

福々しい  
笑顔が魅力の



おともし たかひさ  
乙守 寿隆

2月17日より駒ヶ根訓練所に勤務しています乙守寿隆です。主に語学訓練に係わる業務を担当することになりました。平成20年度2次隊の青年海外協力隊隊員としてパプアニューギニアに派遣されました。出身は宮崎県で、これまで宮崎県産品の販路拡大に係わる仕事をしておりました。駒ヶ根の雄大な景色、澄んだ空気の下で、素晴らしい経験を積み上げるべく邁進いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

# Information

JICA駒ヶ根  
インフォメーション

## 派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

### ▶ JICAボランティア事業の理念と目標

内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動

4月22日(火) 13:00～14:50

定員：10名 講師：小川登志夫 事務局長（青年海外協力隊事務局）

### ▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要

4月30日(水) 13:00～13:50

定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

### ▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する

5月14日(水) 15:10～17:00

定員：10名 講師：廣野良吉氏（成蹊大学 名誉教授）

### ▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り会った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。

5月14日(水) 19:00～21:00

定員：50名 講師：桑山紀彦氏（地球のステージ事務局）

### ▶ 異文化適応概論

内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていきあたっての心構え

5月24日(土) 13:00～14:50

定員：10名 講師：木村秀雄氏（東京大学大学院 総合文化研究科 教授）

### ▶ 世界の宗教理解

内容：世界の宗教についての理解を深める。

5月30日(金) 13:00～16:00

定員：10名 講師：橋爪大三郎氏（東京工業大学 名誉教授）

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。  
ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

## 青年海外協力隊

行ってきます!!

## 平成25年度第4次隊 長野県出身新ボランティア



よこほり さき  
横堀 咲紀さん（小諸市）

派遣国：中国  
職種：日本語教育

中国へ行くというと、大抵怖くないの？危くないの？と聞かれます。国と国の関係が悪くても人と人なら仲良くなれる、そしてそれがいつか国レベルになったら、一昨年一年間中国で暮らして、中国人の暖かさを感じました。お互いに知らないことはまだまだ沢山あるはず。日本の印象を、中国の印象を変える。それが私の目標です。



かねこ なおや  
金児 直哉さん（信濃町）

派遣国：タンザニア  
職種：行政サービス

高校時代の恩師がJICAボランティアの経験者であり、現地での素晴らしい経験談をお話して下さったことがJICAボランティアに参加するきっかけでした。タンザニアの県庁に配属され、日本のODAによる道路工事の予算計画や予算管理を担当します。地域住民と深く接し、固有な名詞の出会いを多く重ねていきたいと考えています。



しかの たけし  
鹿野 岳志さん（信濃町）

派遣国：フィリピン  
職種：防災・災害対策

派遣先は、フィリピンレイテ島オルモック市。昨年の台風による高潮で2番目に被害の大きかった街です。現地の状況やニーズがどうなのか、なかなか情報が入ってこないまま、出国の日が近づいて来ています。海外に行ったのはちょっとした旅行程度。不安と期待が入り交じった心境ですが、フィリピンの人々の力に少しでもなれたら良いなと思っています。



まつお ゆみ  
松尾 祐美さん（飯田市）

派遣国：バングラデシュ  
職種：看護師

アジア最貧国であるバングラデシュに看護師として派遣されます。まだまだ衛生環境など整わず小さな子供、妊産婦の命が失われていたり、感染症が蔓延している現状があります。少しでもその命を守るようになるための活動ができればと思っています。そして、人々の笑顔が増えるような活動を行いたいです。



しみず めぐみ  
清水 愛さん（上田市）

派遣国：ジンバブエ  
職種：音楽

世界の皆に音楽の楽しさを知ってもらいたいという思いでボランティアに参加しました。ジンバブエは日本から飛行機で約20時間の場所にあり、国土面積は日本とほぼ一緒。現地の大学の教員養成課程の先生としての派遣です。楽しい授業を展開できる未来の先生を養成したいと思っています。先生が楽しい音楽の授業をする→音楽好きな子どもたちがどんどん増える、となるのが理想。音楽は言葉をも超えた世界共通言語！ジンバブエの多くの子どもたちに音楽の楽しさを味わってもらえるよう頑張りたいと思います。



とみた けんたろう  
富田 健太郎さん（長野市）

派遣国：エクアドル  
職種：林業・森林保全

中学生の頃、従兄が青年海外協力隊員、その憧れと同時に緑の革命にも関心があり、将来、途上国の農牧技術協力に従事したいと考えておりました。その夢は叶い、JOCV、JICA短期専門家、SVはパナマ（試験場）、パラグアイ（大学配属で9名学生卒業指導・客員教授就任）と続き、今回のエクアドルは3度目の正直です。

## 派遣中JICAボランティア

（平成26年2月28日現在）

